

編集後記

(56巻 第6号 2010年6月)

京大病院では、任天堂の山内相談役からの寄付による新病棟が完成し、泌尿器科病棟はこの6月から新病棟の最上階八階へ移転した。多くの大学病院が経営赤字に苦しむなか、75億円もの浄財によって老朽化した病棟を建て替えることが出来たのは非常に喜ばしいことだったが、新病棟稼働までにはたいへんな問題があった。1つは2007年から始まった京都の新景観条例。京大病院地区は鴨川の東にあり、八階建ての新病棟は高さ制限に抵触する。病院長はじめ事務系担当者が何度も京都市に説明に行き、特例1例目としてやっと認可を受けた。次は内部設計と移転計画。侃々諤々(かんかんがくがく)の議論の末、この新病棟はがんセンターとしての機能を持たせることとなり、一階には外来化学療法部、二階には集学的がん診療部が入った。出来るだけ病棟空床を作らないために、綿密な移転計画とリハーサルが行われ、やっとこの度の移転が行われた。

高さ制限を超えているので、泌尿器科病棟からみる京都の景色は「すばらしい」の一言に尽きる。東には左大文字が真正面にみえる。南には京都タワー、西には右大文字と京都を取り巻く低い峯々が遠望できる。この南西の角には控え室や応接室を備えたSS室(たぶんSuper-Special室の略称)がある。なんと一泊12万円である。ずいぶんお高いようであるが、家族4人くらいは十分寝起き出来るので、京都観光も兼ねての入院と考えれば(そのようなことを考える患者のかたがおられればではあるが)リーズナブルかもしれない。残念ながら今のところ予約は入っていない。空けておくのはもったいないが、ここで京都の夜景を眺めながらワインを飲むというような特権は診療科長といえども認められていない。

(小川 修)